



「地域」や「仲間」が人生を支える大きな力に

生きてます、

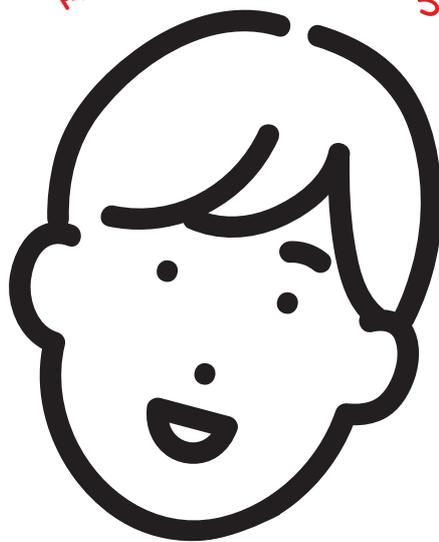
みんなの募金。



募金を通じて地域の「絆」がで



障害・福祉を知ってもらう機会に



じぶんの町を良くするしくみ

# 赤い羽根共同募金



毎年10月1日⇒12月31日

募金のご協力をおねがいします

<https://www.akaihane.or.jp/>

赤い羽根





生きてます、みんなの募金。

赤い羽根共同募金 助成例 ①

スイムファン



水泳でつながる。笑顔がひろがる。

**スイムファンはどんな団体？**

知的・精神・身体に障害のある方たちへ、月2回木曜日の19時から高井戸温水プールをお借りして、水泳のグループレッスンをしています。

**募金はどのように活用されているの？**

水泳コースの使用料やコーチへのお礼の一部にさせていただいています。スイムファンのコーチは、障害者のスイミング指導を学んだエキスパート。色々なお話も聞いて下さるので、みんなの心のよりどころになっています。

**みんな仲良く、いっぱいしゃべって、  
いっぱい泳いで心も体もリラックス♪**

レッスンを終えた22歳の青年に「楽しかった?」と聞くと、頬を紅潮させて「スイムファン、すごい!!!」言ってくれたことがあります。飾らない魂からの声だなあと感激の瞬間でした。スイムファンは一般就労している人もいわゆる言葉のない最重度知的障害の方もいます。それでもわきあいあい、ニコニコ笑顔で仲間が集まり、泳いでいます。

**地域の方へメッセージ**

メンバーのひとりに26歳の私の息子がいます。彼は

17歳からスイムファンに入り、20歳のときに家庭の事情で奥多摩の施設に入所しました。入った施設は良いところでしたが、杉並での「地域や仲間とのつながり」が彼を「杉並でまたスイムファンに通う生活を送りたい!」と強く思い起こさせ2年前に杉並での地域生活を実現させました。

生まれ育った杉並で、色々な人とふれあいながら生きていけることは、とても幸せなことです。障害があろうとなかろうと人生色々な困難が立ちはだかり、思うようにいかないのが常ですが、地域や仲間は人生を支える大きな力になると感じています。





生きてます、みんなの募金。

## 赤い羽根共同募金 助成例 ②

すだちの里すぎなみ



自分の力で生活するということ。

### どのような施設?

知的障害の方のための施設で、約 50 名の方が生活を送っています。入所施設と聞くと一生をそこで過ごすようにイメージされる方もいるかもしれませんが、すだちの里すぎなみは、都内で唯一「地域での生活へ移行すること」を目標として、将来にわたり安心して自分の生活ができるよう、様々な角度から支援を行っています。

### 募金をどのように活用していますか?

障害の特性によっては、何かがとても気になってしまったり、突然パニックになってしまったりすることがあります。そのようなときに物を壊してしまうこともあります。また、「生活を送る施設」であるため、食器洗浄機や洗濯機などももちろん使用しますが、使用頻度が一般家庭より高く、故障も多いです。そういった「生活に欠かせないもの」が故障したり、新たに必要になったときに購入するため、皆さんから集めていただいた募金を役立たせていただいています。

### 地域の方へメッセージ

入所施設の他、作業所でパンや焼き菓子などの販売も

行っています。お昼時には、近くの幼稚園生たちで賑わうこともあり、少しずつ地域に浸透していることを実感しています。作業所は障害を持つ本人たちが「地域の窓口」として店頭に立っています。実際に顔を合わせてコミュニケーションをとることで、出会いがあり、私たちを知ってもらう機会になっています。

どのような方が施設で生活しているのか、どのような施設なのか、是非知っていただきたいと思っております。





生きてます、みんなの募金。



2021年度実績

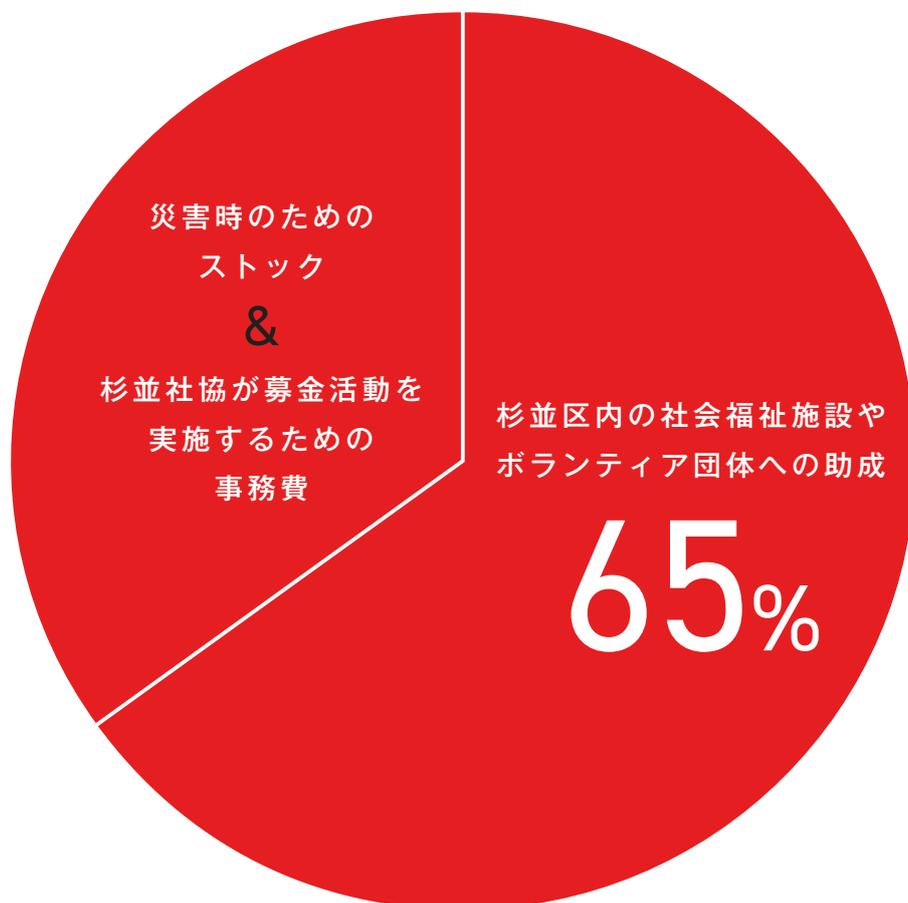
3%

## 災害時の備えにも 使われています

共同募金会では、被災地でのボランティア活動を支援するため、毎年共同募金の3%を(限度として)災害等準備金として積み立てています。東京都共同募金会では過去3年間(平成30年～令和2年度)3千万円ずつ災害発生時に備えた準備金として積み立てを行っています。なお国内で5億142万8,022円が令和2年度で積み立てられており、被災した際の災害ボランティアセンターの設置費、運営費に充てられます。



生きてます、みんなの募金。



## 募金はすべて 大切に使われます

杉並区では、杉並区社会福祉協議会(以下、杉並社協)に「東京都共同募金会杉並地区協力会」という組織を設置し、配分を希望する社会福祉施設や地域福祉団体からの相談や申請を受付けています。毎年、約30施設・団体からの申請があり、「障害者福祉施設で使用する更衣交換用ベッド」や「保育施設の室内遊具」、「障害児・者への水泳療法」など幅広い地域福祉に役立てられます。また、事務費にも募金が割り当てられています。適切な事務はもちろん、上記のような助成金や災害時の積立金の存在を知ってもらう情報発信も行っています。これらは募金の可能性をより広げるための重要な活動となっています。



生きてます、みんなの募金。



# 透明性の高い 使い方や推薦基準

杉並社協では「杉並地区配分推せん委員会(以下、配分推せん委員会)」という組織を設置し、「募金にご協力いただいた皆さまにご理解いただける配分かどうか」ということを中心に審査し、赤い羽根共同募金の実施主体である「東京都共同募金会」へ推薦します。

配分推せん委員会は、町会・自治会、民生委員・児童委員、地域団体など「杉並区民代表」として地域の声を届ける役目となります。



東京都共同募金会ホームページ  
<https://www.tokyo-akaihane.or.jp>



生きてます、みんなの募金。



# 募金は皆さんの協力で 集められます

## 合言葉は 「自助・近所・共助・公助」

方南西町会では、町会の班長さんが各ご家庭を訪問し、募金封筒を集めるかたちで赤い羽根共同募金に協力しています。町会の会員が高齢化する中、訪問し募金を集めることは容易ではありませんが、顔を合わせることでお互いを知ることができ、安否確認にもなっています。「向こう三軒両隣」という言葉のとおり、何か起きたときには、ご近所での助け合いが大切と考えます。各戸募金を続ける是非を問われることもありますが、私たちの町会では、初代会長から代々「絆」を大切にすることを受け継いでいます。「自助・近所・共助・公助」ということばを合言葉に、町会のみなさんにご理解いただきながら、共同募金に協力し、地域の「絆」をこれからの世代につなげていきたいと思っています。

方南西町会 服部会長

## 募金を身近に 感じていただくために

ファミリーグラン高井戸デュープレックスは 340 世帯が暮らすマンションです。

約 20 年以上にわたり赤い羽根共同募金への協力を続けていますが、多くの方が暮らしており募金については様々な考えもあるようです。

私たちはすべての居住者に独自の広報誌を配布しておりこの中で募金の趣旨を伝えたり、ポスターやチラシも活用して皆様のご理解を得られるように工夫しています。

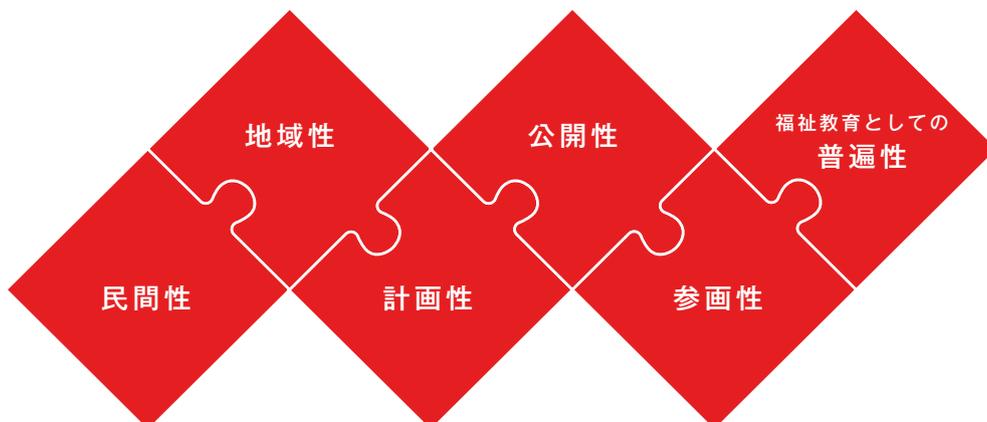
ここ数年は、ご協力いただく世帯数が倍近く増えています。これは私たちの工夫だけでなく、昨今の新型コロナウイルスも影響していると思います。病気になることや経済的に生活が苦しくなることへ、それを支える重要性の理解が増えたのではないのでしょうか。

ファミリーグラン高井戸デュープレックス 蘆塚代表



生きてます、みんなの募金。

共同募金6つの原則



# じぶんの町を 良くするしくみ

赤い羽根共同募金



募金の代名詞とも呼べるほど有名な「赤い羽根共同募金」。

有名人などが「赤い羽根」を胸につけて、テレビに映る姿を1度は見かけたことがあると思います。

「赤い羽根共同募金」は、一体どのようなものなのでしょうか。

時は遡り、1947(昭和22)年、第1回共同募金運動が全国的に展開されました。この運動が始まった背景には、戦争による被災がありました。戦前6,700余あった民間の社会福祉施設は、戦災などで3,000余に減少し、また施設運営は、物価の高騰などで苦しんでいました。

そこで、当時アメリカで組織化されていた「コミュニティーチェスト(共同募金)」をヒントに民間資金を募金によって集める、現在の募金運動が始まりました。時代とともにかたちを変えながら、現在では、各都道府県に設立された共同募金会が実施主体となり、社会福祉を目的とする様々な事業や活動に幅広く使われるようになりました。

ひとりではできないけれどみんなの力を合わせればできることがあります。募金もそうです。

小学生や中学生、大人も高齢者も困っている人のために役立ちたいと考えています。その結果が大きな力になり、福祉施設や障害者の方に使われます。配分の仕方は「ここが困っているよ」と手を挙げてもらいます。配分推せん委員の方がその場所を見に行ったり話を聞いてここには必要だねと決めたところへ皆さんの募金が使われます。募金をしていただいた皆さんからの大切なお金を有効に使うにはどうすれば良いのか考えるのも共同募金会の仕事です。こうして考えてみると一人ひとりの募金は金額の大きさではなく募金をしていただく皆さまの気持ちを間違いなく福祉施設や障害者の方に届けなければいけません。最近ではNET等でワンタッチで振込ができるシステムもあります。それでも今年も赤い羽根共同募金は街頭募金や各戸募金をします。手から手へ、顔の見える募金が大切だと考えているからです。

東京都共同募金会杉並地区協会の会長 鹿野 修二